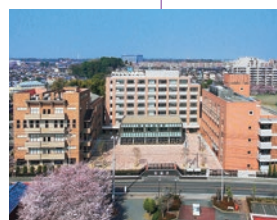


S 狭山ヶ丘高等学校・付属中学校

地の利を生かした教育プログラムと 「学ぶ力」を育てる探究活動



①地の利を生かした軽登山。学校からほど近い低山の山道を巡り歩く野外体験②東大教養学部が毎週金曜日にオンライン開講している特別講座に参加③ポスターセッションは中3の学びの集大成④目標実現のため朝ゼミ・放課後ゼミが活発に行われている



PICK-UP

口頭発表能力を重視する 英語スピーチコンテスト



英語科では、特に口頭発表能力の育成を重視して、英語スピーチコンテストや、文化祭での英語劇上演などを毎年行っている。このうち英語スピーチコンテストは毎年1月に学年別に行われ、1年生は既成の英文を音読、2年生は物語を暗唱、3年生は自分が書いた英文を暗唱する。また会話力の強化を目的に用意されたカナダでの語学研修プログラムは、コロナ禍以降中止(次年度復活予定)されているが、昨年度は代替手段として、東京都と民間が共同で運営する英語学習施設TGG(Tokyo Global Gateway)の語学研修プログラムに参加した。

はじめに少し自慢話をさせていただくなら、まず本校の「地の利」を生かした特色ある教育プログラムをご紹介します。学校の中間試験後に、学校近郊の標高のあまり高くない山に登る軽登山と、校内の農園で野菜作りに挑み、その後2年にわ



高橋 奈央子
生活指導部
保健体育科教諭



大江 基史
教頭
地理歴史・公民科教諭

はじめてに少し自慢話をさせていただくなら、まず本校の「地の利」を生かした特色ある教育プログラムをご紹介します。学校の中間試験後に、学校近郊の標高のあまり高くない山に登る軽登山と、校内の農園で野菜作りに挑み、その後2年にわ

中学3年間で培った探究力が 高校の学び、そしてその先に

たつて続く農作業実習は、どちらも都会と田舎の境界ゾーンに立つ本校ならではの取り組みですが、一方、東京都心のターミナルまで30分余りという交通の便を生かして、生徒たちが都心部や他県の文教施設や歴史的名勝を訪れ、「現地」で「本物」から多くの学びと刺激を得ることができると、別の意味で本校が享受する地の利の証しだと考えています。

本校は生徒に対して、探究活動を対象についての単なる情報収集に終わらせず、必ず「問い」を設定すること、それも「答えがわかっていない問い」を立て、自らその問いに答えることを求めています。一見、中学生には高すぎる要求のようにですが、生徒たちはそれぞれの興味・関心のレベルに応じてしっかりと課題を受け止め、担当教員のアドバイスを受けながら自分のテーマと問いを明確化し、中3の3学期に行う探究活動の発表会では皆が堂々と自信をもって自分の研究成果を披露しています。

直近の事例では、右利き・左利きと右脳・左脳の機能分担との関連に興味を抱いた生徒が、世の中には右利きの人に使いやすいものばかりが溢れている事実に着目し、脳科学の知見を援用しながら、これからは左利きの人に使いやすい道具や機器を増やし、右利きの人に左手の使用を促すことが認知機能の維持ひいては高齢者の健康増進につながるなどの建設的な提言を述べていたのが印象的でした。

対象・テーマの選定から資料検索、レポートの作成・発表まで、すべて生徒の自主性に任せられる本校の探究活動はややハードかもしれませんが、しかし、近年の東大合格者5名中4名が内進生という実績からも、この活動を通じて身に付く「学ぶ力」と「問う力」は、高校の学びを支え、さらに大学の学びを支える力になると確信しています。

